

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会  
フューチャー・アース国内連携分科会  
申し送り事項(案)

2020年8月20日(木)  
分科会委員長 武内和彦

1. 本分科会は、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会のもとで、フューチャー・アース日本委員会や国際事務局(グローバルハブ、アジア地域センター)と連携しながら、日本におけるフューチャー・アース活動を推進・支援するために設けられたものであり、第25期においても分科会設置が望ましい。
2. 活動を開始した第24期には、行政、民間、NGO等の多様なステークホルダーの全面的な参加という段階にまで到達することができなかった。第25期には、そうしたバックグラウンドをもつ会員・連携会員を積極的に分科会委員への就任を要請するとともに、特任連携会員として新たに数名を指名することが必要である。
3. フューチャー・アースは、外部評価の結果を受けて、大幅な組織改革を検討中である。多様な関係者を包含する総会の設置、国際事務局の見直し、GRPsとKANsの一体的運用に向けた取り組みなど、俯瞰的立場から地球規模のサステナビリティ学の構築を目指すフューチャー・アースのあり方を再検討すべきである。
4. 日本学術会議では第24期に入って、持続可能な開発目標(SDGs)への貢献が大きなテーマとなっている。本来、フューチャー・アースは、パリ協定などの地球環境政策を含めてSDGsに大きく貢献できるはずの取り組みであるが、日本学術会議内での存在感が必ずしも高くない状況を改善する必要がある。
5. 新型コロナウイルス後の世界をいかに構想するか、世界の英知がさまざまな提案をしている。とくに、新型コロナウイルスからの復興を社会変革(transformative change)に結び付け、持続可能な社会の実現に向かう道筋を明らかにすることが求められている、フューチャー・アースからの提言が求められている。
6. 本分科会と密接に関連するフューチャー・アース日本委員会のあり方について検討を深める必要がある。財政基盤や事務局体制が脆弱な現状を踏まえ、参加団体からの会費の徴収の可能性や、事務局体制のあり方について、第25期の分科会で議論し成案をまとめて日本委員会に諮る必要がある。